11) アメリカ歯科医史学会会誌50年の書誌学（その2）第3代編集長 Dr. Malvin E. Ring の時代

Bibliography of the Official Publication of the American Academy of the History of Dentistry (Part II)
The Era of Dr. Malvin E. RING the 3rd Editor

東京歯科大学アーカイビスト　森山　徳長

Norinaga Moriyama, Achivist, Tokyo Dental College

アメリカの歯科医史学会誌は現在までに4人の編集者によって継続してきた.

初代 Denton, 2代 Washburn に次いで, 1968年マイアミビーチ年次大会で任命され，第3代編集長として登場したのは Malvin Ring で, 1969年第17巻からであった.

彼は1988年開業を隠退する（第38巻）まで，21年間独特な才能をもって Bulletin of the History of Dentistry を発展させ，同誌を押しも押されぬ世界の歯科医史学の一流誌に育て上げた．その経歴は，事前抄録の通りである.

筆者が Dr. Ring と文通し投稿のお世話をいただいたのは1981年からで, 日本風の図表付きの冗長な論文を切り刻んで手を入れ1982年春号の「即日一回根充法」であった．次の論文は高添教授と共著「FDI の歴史と日本の歯科界指導者」(1984) であった. 82-84年いづれも A. A. H. D. の総会に出席した．1985年には「East meets Weat」のプランを依頼されて日本から本間邦則・中原泉「歯刷子とつま楊子」森山徳長・長谷川正康「日本固有の木床義歯」の2題を同年桑港の総会で故本間と筆者が口演し, 木床義歯の論文は1987年 Bulletin に掲載された.

Dr. Ring は1988年 Batavia 市での開業を止め，編集長も隠退されて世界各国を巡って資料を集められ，1990年「図説―歯科医学の歴史」を上梓された（日本の章の資料の大部分は筆者が提供した）. 5年後本間先生の熱心なお世話で，新潟の西村書店から谷津・本間・森山共訳の日本語版が出版された.

12) 慶応義塾大学医学部予防歯科医学研究所について

Institute of Preventive Dentistory Faculty of Medicine Keiô-Gijuku University

浜松市　水川　秀海

Hidemi Mizukawa, Hamamatsu City

慶応義塾大学医学部に昭和14年 (1939) 7月26日丸見屋商店総支配人三代目三輪善兵衛から，その年の5月に他界した先代の遺志として予防歯科医学研究所設立の寄付申出があった．先に慶応大学医学部歯科学教室教授岡田満は吸着剤ゼオライトを含む歯磨剤を考案し（ゼオラ歯磨）丸見屋から発売していた.

丸見屋初代善兵衛は小間物屋としてスタートしたが2代目は明治37年(1904)化粧品業界に進出，明治43年（1910）ミツワ石鹸を発売し大好評であった．2代目は商売上手であっただけでなく学術にも理解があり大正4年（1915）には本邦初の民間化学研究所であるミツワ化学研究所を設立している.

寄付申し出のあった昭和14年は日中戦争下であったが慶応義塾は万難を排して同年10月起行し翌15年5月工事を完了，7月3日受け渡し手続を終えた．場所は医学部構内の予防医学教室と北里博士記念医学図書館の中間に位置し木造モルタル仕上げ2階建約100坪，外観内部構造共に瀟洒な感じの造りであった.

昭和15年11月6日小泉塾長その他関係者多数が列席して開所式が行われ，この日第2回慶応歯科医学会総会並に学会が開かれ京城帝大生田信保助教授並に研究所所長草間良男教授の特別講演があった.

本研究所の組織は所長に予防医学教室主任教授草間良男，部長歯科学教室主任教授岡田満，研究主任助教授正木正，講師小平鷹四郎，助手阿保喜七郎, 神野欣三で翌16年に坂本豊美が助手として採用されている.

この研究所の研究テーマは口腔疾患の予防はもとより歯科医学の基礎，臨床の研究等広範囲で研究の分野も多岐に渡っていた．小平は唾液の性状と齲蝕との関係，阿保は口腔疾患とアレルギー，

神野は生化学特に弗素関係，坂本は口腔細菌をそれぞれ研究の柱としていた．しかし研究所が新設であった上に開所翌年に大戦が勃発し研究の進展は困難を極め多くの研究が日の目を見ない中に昭和20年5月の空襲によって全施設が焼失した．

その後研究員は歯科学教室に所属して研究を続行し復興に努力したが昭和30年9月26日の評議員会で廃止が決定した．

もし焼失することがなければ岡田の偉大な構想は座折することなく多くの業績が報告されて歯科界の進歩に貢献したことであろう．

13）血脇守之助の親友　田原　利

Toshi Tahara Who Was a Nice Mentor of Morinosuke Chiwaki

東京歯科大学　山岸東太郎
森山　徳長
長谷川正康
石川　達也

Totaro Yamagishi, Norinaga Moriyama, Masayasu Hasegawa and Tatsuya Ishikawa, Tokyo Dental College

田原　利は，血脇守之助に歯科医師への道を勧めてくれた恩人であり，終生にわたって血脇守之助を支援した人物である．

田原　利氏は，安政6年8月19日に金沢市石浦町に生まれた．明治5年4月金沢医学館に入学したが，時代の変遷の中で，医学館は閉校，病院に引き継がれた．しかし，学なかばで退学し，田代基徳の私塾修文館の門下生になった．田代基徳は，明治11年2月邸内に外科手術及び局所解剖を演習するため，病体解剖社を設立した．後に血脇先生が知己を得ることになる人として，教員には松本順，石黒忠悳，定員には渡部鼎などがいた．ドクトル田原との不思議なる縁が後に血脇先生の歯科医業での大輪を咲かせる因となるのである．

内務省は，明治17年1月21日第4号を以て，従前府県庁にて下付した開業免許所持者に内務省より免状を授与するとの通達により，ドクトル田原は内務省の免状を得て，東京府麹町区土手3番町に開業した．

明治20年2月8日，渡米，同23年に帰国との記録があるが，月日の記載は不明である．帝国生命「社況月報」第188号にオハイオ大学卒業とある．

陸軍軍医総監石黒忠悳の斡旋により，新潟県南蒲原郡三条町に新設された共立三条病院に院長として招聘され，明治24年7月1日村松屋の母屋を病院にして開院式を行った．そこで二人は出会ったのである．三条病院長の月俸は120円であった．

明治23年，血脇守之助は新潟の三条町米北高校の英語教師として招聘され現地に赴いた．翌24年7月に三条病院の病院長として赴任してきた田原利と知り合った．10歳年上だっだ田原は，血脇に米国の国情を話したり，西洋料理の食べ方を教えたりし，酒の飲めなかった血脇に「酒を飲まぬと世の中が分からぬ」と言って，血脇を毎夜のように紅灯の巷に連れ出して，酒の飲み方を教えた．

やがて，学校の中で事が起こり，血脇の中で教師という職業への情熱が薄れかけていった．そんな時，血脇は，友人から送られてくる英字新聞ヘラルドに掲載されていた歯科医師の広告文を見た．歯科医師になることを田原に相談をしたところ，大いにやるべしと賛成し，歯科医への道を勧めてくれた．田原の助言が，血脇を勇気づけたのである．

歯科学報第45巻第5号に田原　利についての訃報記事が掲載されている．

また，帝国生命「社況月報」第188号によれば，明治27年に帝国生命保険株式会社に入社，常に奮闘努力し業務の業績が優秀であり，金沢支店長，大阪支店長，外事部長，視察課長等を歴任している．田原が，医師の道を辞めて，何故帝国生命に入社したかは定かでない．

長男敏雄は，大正4年に東京歯科医学専門学校を卒業している．

歯科学報第25巻5号によれば財団法人が成立したとき基金の管理及び支出を行う委員の一人として，基金管理委員に推薦されている．その重責を全うしている．

田原　利氏は昭和15年3月15日に池袋の自邸にて逝去した．享年82歳であった．